

授業科目名	オルタナティブセラピー	担当教員	◎高橋文子、関根一夫
選択	開講年次：3年前期	単位：1単位	授業形態：演習 30時間

【授業概要】

臨床美術は、認知症のケアを目的として考案されたものであるが、近年子どもや社会人のメンタルヘルスへの導入が始まっている。この授業では、代替療法の一つとしての臨床美術の概念を学ぶとともに、制作体験を通して自らの感性と出会い、実践を通して美術を用いた他者の感性との関わりに理解を深めることを目的としている。

【授業目的・目標】

1. 代替医療の概念について理解する。
2. 美術療法のひとつとして臨床美術の概念を把握する。
3. 臨床美術の制作と実践を通してその効果を理解する。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|--|------|
| [01] 代替療法と芸術療法について：臨床美術とは 臨床美術の歴史 実施例の紹介 | (高橋) |
| [02] アートプログラム制作：感じたことを描く アナログ的な表現の体験 | (高橋) |
| [03] アートプログラム制作：実感して描く | (高橋) |
| [04] 実践研究：実習プログラムの試作 | (高橋) |
| [05] 実践研究：実習プログラムのロールプレイング | (高橋) |
| [06] 実践研究：芸術療法の実施状況について | (高橋) |
| [07] アートプログラム制作：立体制作① | (高橋) |
| [08] アートコミュニケーション：存在論的人間観を学ぶ | (関根) |
| [09] アートプログラム制作：立体制作② | (高橋) |
| [10] 実践研究：作品展示の実践① 作品展示の事例 展示方法の工夫について | (高橋) |
| [11] 実践研究：作品展示の実践② 設営 | (高橋) |
| [12] 実践研究：作品展示の実践③ 展示 | (高橋) |
| [13] アートプログラム制作：色鉛筆を用いた平面制作 | (高橋) |
| [14] 実践研究：実習報告 | (高橋) |
| [15] 実践研究：作品展示の実践④ 展示の撤収 振り返り | (高橋) |

【教科書】

指定なし

【参考書】

1. 宇野正威、芸術造形研究所編著（2013）認知症医療と芸術のコラボレーション，金剛出版
2. 金子健二編著（2007）臨床美術～認知症治療としてのアートセラピー，日本地域社会研究所

【評価方法・評価基準】

レポート試験 70% 実習課題レポート 10% 作品提出 20%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業内で提示した内容について事前に準備を行う。

事後学習：授業内で説明した内容の実習を実施し期日までに提出する。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素 I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、VI. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力の育成と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習課題レポートについては、授業内で発表し合い共有する時間を持つ。

【備考】

授業で実施する芸術療法以外の代替療法については、興味を持った書籍を選定し読むようにする。